

小さな活動

鹿児島修学館中学校 二年 井手迫い て さ こ 茂花も か

久しぶりに旅行から帰ってくると部屋の植物が枯れていた。家族みんなで大切にしていた”ネムの木”だ。十日間の旅行中、水やりをしていなかったからだ。人が十日間水を一切口にしないのと一緒にすることで苦しい思いをさせてしまったと私は、後悔した。

私は、ネムの木が枯れてしまったこと思
い出したことがある。水に関する二つのこと
である。

一つ目は、旅行中での出来事だ。インドネ
シアのバリ島に行くため、乗り換えをしない
といけなかった。乗り換えで韓国の空港で冷
水機をみて弟が、

「あの冷水機と同じものが学校にもあるよ。
飲んでもいいの？」

と、言った。すると父が、

「飲んじゃだめだよ。水道水も。買った水を
飲みなさい。」

と、答えた。まだ小さかった私はなぜだろうと不思議に思った。私の住んでいる鹿児島はとても水がおいしく、水道水も普通に飲んでいた。ペットボトルの水と同じようにおいしくどこへ行っても水は同じものなのだろうと思っていたからだ。

二つ目は、小学生の頃の断水だ。熊本地震の影響で停電になり、断水になった。海上保安庁で働いている知り合いのおじさんから、「もしかしたら断水が起こるかもしれないから、お風呂の浴槽に水をためておいた方が良いよ。」

と、電話がきた。どうして水をためた方がよいのか解らなかったが浴槽いっぱい水をためた。断水で一番困ったことはトイレだった。水洗トイレだったため水が流れなくなってしまう。そんな時、おじさんが教えてくれた事が役に立った。お風呂の水を水洗トイレのふたをあけ、中に入れる。すると流すことができた。普段何気なくしていたことがとても

手間がかかる作業になった。

この非日常的な二つの経験から水の大切さに気付くことができた。そして、私は我慢をしなくてもいつでも水を飲むことができるが、それは全ての人がそうではないということ。あたり前でないということを知るきっかけとなった。

私はユニセフのコマーシャルで私と同じくらいの年代の女の子が毎日朝と夜片道一、二時間かけ、遠くのきれいな水があるところに水をくみに行っている映像を見たことがある。近くの川は、洗たくをしたりトイレとして使用しているため、汚れていてとても飲料水として使えないからだ。学校にも行けず、友達と遊ぶこともできずに家族のために働く彼女をみてとてもかわいそうに思った。そして、少しでも役に立ちたいと思った。

そこで私は小学六年生の時、学校で行われた赤十字活動に参加した。ユニセフの女の子のことをポスターにして、募金を全校生徒に

呼びかけた。みんなは喜んで募金をし、赤字活動に参加してくれた。この小さな活動がどのくらい女の子の役に立つかはわからないが、この積み重ねがいつか届くだろうと信じている。

このように世界には私たちが思っている透明できれいな水を飲めない人もいる。汚れた川の水をやむをえず飲み水として、使用しなければいけないことで病気になる、亡くなってしまう人が世界中には多くいることを知った。このように、人の命を作っている水はとても大切なものだ。近い未来、世界中の人が私の考える水、安全な水をいつでも飲めるようになってほしい。私ができる小さな活動をこれからも続けていきたい。